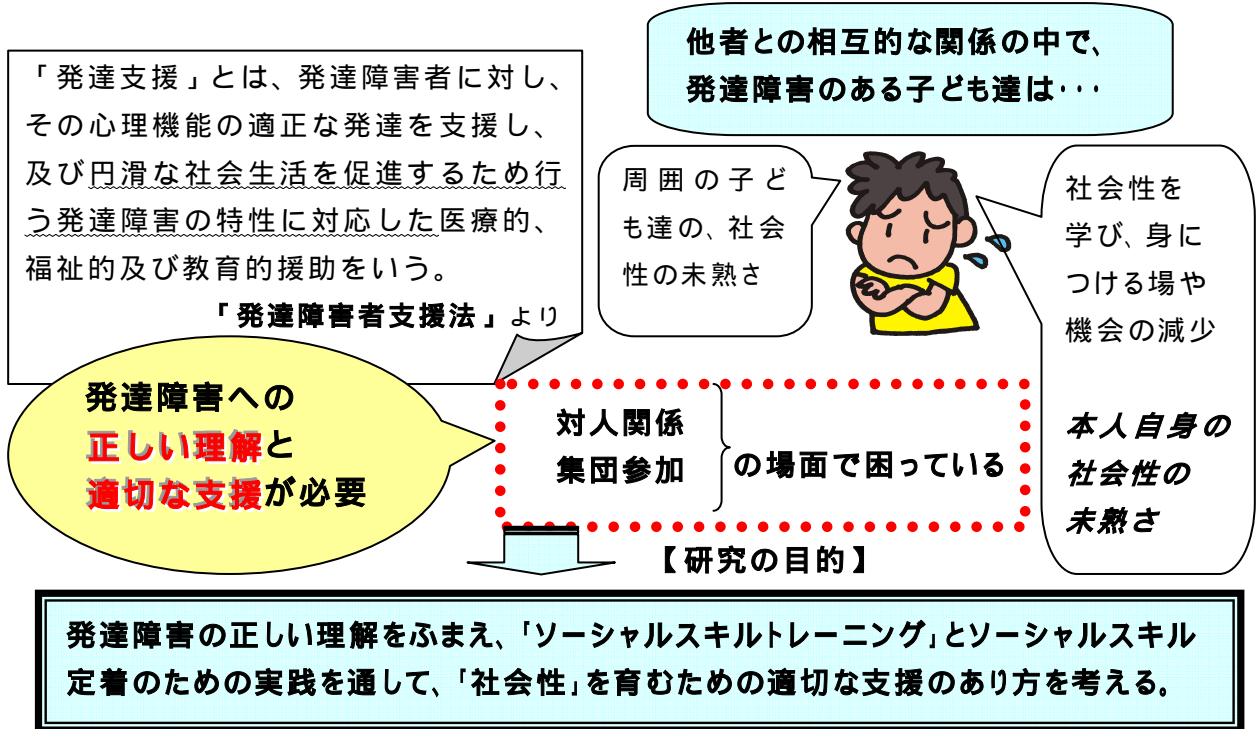


発達障害のある子ども達の理解と支援のあり方について

～ 障害児学級担任として、ソーシャルスキルトレーニングを中心に～

鳥取県教育センター教育相談課 長期研修生 足立理恵

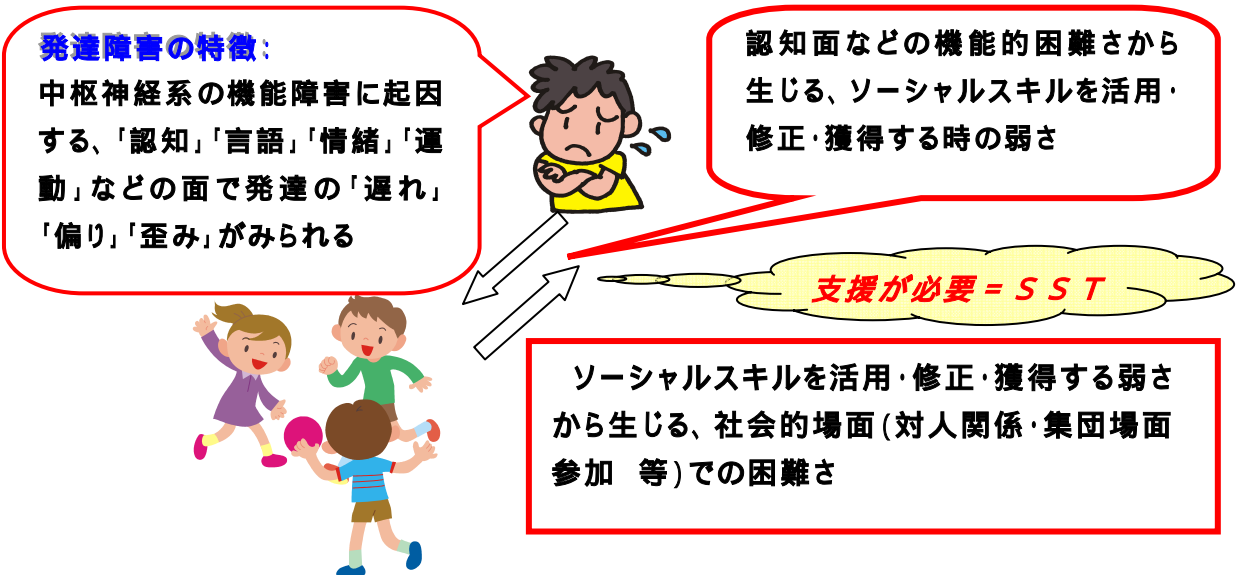
1 研究テーマについて



2 発達障害の特徴とソーシャルスキルの活用や獲得との関係

* 社会性：「ソーシャルスキル」の総体

* 「ソーシャルスキル」：良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技術やコツ

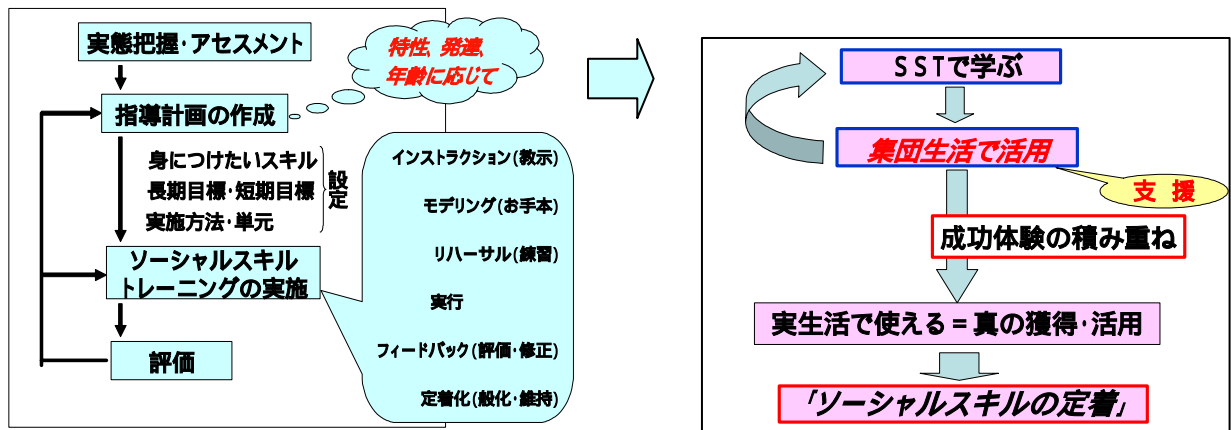


* 「ソーシャルスキルトレーニング」 Social Skill Training、以下 SST と呼ぶ

3 ソーシャルスキルトレーニングの実施とソーシャルスキル定着のための支援

【SSTの実施に向けて】

【ソーシャルスキル定着の流れ】



4 3人の児童への実践

【SSTの実施】

「ソーシャルスキルのレパートリーを増やす」 個別学習で

「絵カード」「ロールプレイ」の活用

「ソーシャルスキル活用時の

補助的手段の獲得」 個別学習で

「ソーシャルストーリー」の活用

「ソーシャルスキルを使えるように・学び直し」 集団学習で

「ゲーム」「約束表」の活用

【ソーシャルスキル定着のための支援】

活用場面が分かるための支援

例：交流学級との授業の連携 など

動機づけのための支援

例：「がんばり表」の活用 など

見通しが持てるための視覚的支援

例：補助的手段（より所）獲得など

その他の支援

例：交流学級担任との支援等の連携・情報交換

生活場面全体でのSSTの方法や支援の活用 など

5 ソーシャルスキルトレーニングや定着のための支援実施後の変容

スキル活用場面の増加

例：自分から友達の輪に入り、一緒に過ごす時間が長くなった。

補助的手段や支援があることで、落ち着いて集団場面に参加できる回数が増えた。 など

スクリーニングシートによる評価で、数項目の評価が上がった。

周囲の児童からも望ましい関わりが増えた。



6 研究のまとめ

発達障害の特性を正しく理解した上で、SSTを実施しソーシャルスキル定着のための支援を行っていくことが、発達障害のある子ども達の社会的場面への自信と意欲を育てるのに効果的であり、また必要性も高い。

授業や支援や連携を通した周囲への発信が、発達障害のある子ども達への理解を深めると共に、全ての子ども達への支援として共有することができる。